市立柏高校 進路室通信
NO.6

蕾 - つぼみ -

2021.9.9

◆入試対策　～小論文編～

「先生、小論文が上手く書けません…😥どうしたらいいですか？」という質問をたびたび受けます。（大人であっても、長い文章は書き慣れていないので、その気持ちはよくわかります。）

さて、小論文が難しいと感じる原因は、大きく二つあります。一つは「書くための語彙力が少ない⇒論理的に意見を述べるための用語や表現の習得が必要」な場合、もう一つは「書くための内容が少ない⇒もっと情報取集が必要」な場合です。あなたはどちらに当てはまるでしょうか？多くの皆さんが、なんとか原稿用紙のマス目を埋めることに必死になってしてしまい、情報収集の段階を飛び越えしまっているように感じられます。

そもそも小論文は、何のために出題されるのでしょうか。一つは、文章構成力（書く力）の有無を確認するためですね。そしてもう一つ、出題者は、高校生の皆さんの社会問題に対する興味関心、そして、その問題について考えを深めるための知識量の有無を見極めたいという意図があります。……ということは、小論文を上手く書くためには、社会で起こっている数えきれない問題について、正しい情報収集が必要不可欠ということになります。知識があって初めて、自分の考えを述べることができるのです。

では、どのようにして情報を集めたらよいのでしょうか？「ニュースを見る」「新聞を読む」など、方法は多々ありますが、「たくさんの入試問題を解く」というのも有効的な方法の一つです。

◆「過去問」の使い方

志望校の過去問を解くことは、出題傾向をつかむことができますので、有効的な方法です。しかし、小論文の場合、あまり古い問題を解くことはおすすめしません。なぜなら、小論文で取り上げられるとなる社会情勢というものは、どんどん変化していくためです。ファッションに時代の「トレンド（＝傾向）」があるように、小論文にも「トレンド」があります。例えば、１０年前と比べ、インターネットやスマートフォンの普及具合は全く違いますよね。同じ情報化社会でも、何が話題となり、問題視されているかは常に変化しているのです。

世界情勢や経済産業の動向によって、様々な分野の方針やプランが、新鮮なワードによって打ち出されています。例えば「ＡＩ技術」「ＳＤＧｓ」「グローバルサプライチェーン」等がそれにあたるでしょう。しかし、そのような言葉を知っているだけでは、全く使いものになりません。それらが今、自分たちの生活の中でどのような意味を成し、どのような影響をもたらしているのかというところまで、知識として得ておくことが大切なのです。経済、ビジネス、教育、環境、国際、情報、テクノロジー、医療、健康など、まさに自分が志す分野からスタートしましょう。

よって、小論文を書くには、最新の時事に関する基礎知識と、様々な立場から問題を見つめる視点を持っていることが必要になります。そのためには、同じ分野の過去問をたくさん解いてみることがとても有効的です。学校によっては他校の課題文や問題形式を参考にして出題をしているケースもあるため、「Ａ大学」の課題文が、「Ｂ大学」の答えになっていることがあります。例えば、CO_2 削減のための「レジ袋の有料化」によって、新たに浮上した問題点は何でしょうか？（企業の販売戦略によって、必要以上にエコバックを買いすぎてしまったなど…）自分では考えが及ばなかったことも、出題された課題文から学ぶことができます。丁寧に立ち止まって、問題意識をもつ姿勢が考えを深めることに繋がっていきます。トレンドを意識しながら、数多くの問題に取り組むことで、知識や見解が増え、多くの書籍を読むことと同等の価値を見出すことができます。

コロナ禍で日常生活が変化し、さまざまな制限に伴う困難を強いられる昨今、高校生の皆さんにできることは何でしょうか。今だからこそ、私たちが気付かなかった（見ないようにしていた）社会問題の現実が露になったととらえれば、この苦境との向き合い方も変わってくるかもしれません。

【参考：(株)学研教育みらい主催　小論文対策研究会】

「無知の知（自分に知識がないことに気づいた者は、それに気づかない者よりも賢い）」ソクラテスの言葉